

民主党大躍進！政権を射程距離に

—民社協会所属候補20名当選—

民主党の躍進で政権交代可能な2大政党制に

第43回衆議院選挙は11月9日投票が行われた。民主党は解散前議席の137議席から177議席へ40議席増の大躍進を遂げたが、念願の政権交代は惜しくも実現できなかった。

民社協会所属の候補者は23名が立候補し、当選者は20名だった。そのうち、小選挙区当選者14名、比例代表での復活当選が6名であった。今後とも民社協会としてのまとまりを強化し、民主党を政権政党にしていくため努力していかなければならない。

自民党は政権政党の底力でなんとか10議席減でとどまった。その結果、自民党と民主党の両党で衆議院の480議席中の414議席と86%を占めることになり、着実に2大政党化が進んだ選挙であった。民主党は確実に政権獲得への一歩を踏み出した選挙であった。

公明党は若干議席を増やしたものの共産党、社民党は2大政党化のあおりを受け、いずれも議席を減少させた。

今回総選挙の特徴は「政権選択」が前面に出てきたことであり、政権を担うのが自民党か民主党かを問われた選挙であった。政権獲得の際実施する政策を自民党は「政権公約」、民主党は「マニフェスト」というかたちで示した。

政策の争点の中心となったのは、年金改革、高速道路の無料化（道路公団改革）、イラク問題、北朝鮮拉致問題の解決などであったが、論議がかみあったとはいいがたい。その最大の要因は、年金改革などでも自民党は「平成16年中に抜本改革を行う」と言うのみで、抜本改革の具体案をまったく示さなかったことにある。

第43回衆議院選挙党派別選挙結果

	計	公示前	選挙区	比例代表
自 民	237	247	168	69
民 主	177	137	105	72
公 明	34	31	9	25
共 産	9	20	0	9
社 民	6	18	1	5
保守新	4	9	4	—
無所属他	13	13	13	—
合 計	480	475	300	180

※公示前は欠員5、自民党の数は無所属追加公認を含まない。



見事、連続2期当選を果たした大石尚子候補（神奈川4区）

民主党が今回選挙で大躍進したことで、日本に初めて2大政党制が実現したといえよう。民主党は次期総選挙で再度、政権交代に挑むチャンス、足がかりを得た。

今後は憲法、安全保障などの基本政策などについて、しっかりした党内議論を行い、明快な方針を打ち出すことが求められてくる。政権を実際にとった場合に何をしなければならぬかという視点から議論を進めることが重要となるだろう。

今回総選挙でも一部与党から、民主党が総選挙で過半数を得たとしても、参議院では過半数に50議席以上も足らず、法律1本成立させることができない、と指摘された。

現在、民主党の参議院の議席は67議席である。少なくとも100議席を超えるところまで持っていくことが、政権交代を確実なものとするために必要であろう。

今回総選挙の躍進をステップにして、次期参議院選挙に向けて努力していこう！

中野寛成理事長、衆議院副議長に就任

民社協会の中野寛成理事長は、衆議院選挙終了後の11月19日に召集された特別国会で、衆議院副議長に全会一致で選出された。衆議院副議長は野党第1党から出すことが慣例となっている。

中野理事長は今回の当選で連続10回当選。長年、政調会長や副代表などの役職を歴任してきた。各政党とも深いパイプを持っており、国会運営での難しい折衝役として適任と民主党内で判断された。なお、衆議院議長には自民党から河野洋平氏が就任した。